

年 間 授 業 計 画

科 目 名		総合英語 I		単位数	3 単位	学年・学科	2 学年 全学科			必修	・ 選択
教科書名						副 教 材 名	Evergreen English Grammar 23 Lessons				
科 目 の 目 標		英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。									
学習内容と進め方		ワークブックやハンドアウトを利用し、A L T との実践的なやり取りを通して、科目の目標にある領域を総合的に伸ばすよう、様々な学習活動を行う。									
学 習 の 留 意 点		A L T および日本人教師 2 名とのティームティーチングで授業を進め、英語で指示して授業を行う。 特に英語による外国人とのコミュニケーションの場面を想定し、話す力、聞く力の育成に留意する。さらに高度な語彙力・表現力を身につけ、意見文やメール応答文を書くなど英語を用いた発展的学習ができるよう留意する。									
月	単 元		予定時数	具体的な学習内容		評価の観点			備考（評価項目）		
						1	2	3			
4	英語の品詞、句と節 疑問文、否定文 命令文、感嘆文 自動詞、他動詞		10	オリエンテーション		○	○	○	英作文		
						○	○	○			
						○	○	○			
						○	○	○	英作文		
5	文型		10	語彙を増やし、自分の気持ちや考えを発信できる力の増強を目指す。また、そのために必要な文法や表現力をテキストを用いて学習する。		○	○	○	前期中間考査 パフォーマンステスト		
6	時制 完了形		10	・積極的にコミュニケーションを取る姿勢を伸ばすために、ペアワークを適宜入れる。		○	○	○	英作文		
						○	○	○			
7	助動詞		11	・オーラルコミュニケーションのスキルを高めるために、ALT との T/T 授業を行う。		○	○	○	夏休みの課題		
8											
9	態		11	（英検準 2 級～2 級 2 次面接練習など）					前期期末考査 パフォーマンステスト		
						○	○	○			
									英作文		
1 0	不定詞		11	・発信するために必要な語彙力を高め、必要な情報を集め、整理する姿勢を伸ばす。（プレゼンテーションなど）		○	○	○	英作文		
1 1	動名詞 分詞		11	・オーラルコミュニケーションだけでなく、ライティングのスキルも高める。（英検準 2 ～2 級エッセイなど）		○	○	○	後期中間考査 パフォーマンステスト		
						○	○	○	英作文		
									冬休みの課題		
1 2	比較		11			○	○	○			
									後期期末考査 パフォーマンステスト		
1	関係詞		10			○	○	○			
2	仮定法		10			○	○	○			
3						○	○	○			
評価方法		(1) 評価の観点は下記の票の通りとする。 (2) 具体的には定期考査、パフォーマンステスト、小テスト、英作文の提出、課題の提出、授業への参加態度等を総合して判断する。									
評価の観点		観点	趣旨								
		1. 知識・技能	総合英語 I で学ぶ内容において、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどが理解できている。また、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。								
		2. 思考・判断・表現	総合英語 I で学ぶ内容において、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身につけている。								
		3. 主体的に学習に取り組む態度	総合英語 I で学ぶ内容において、背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。								
評価基準		1. 知識・技能	A 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 B 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能を概ね身に付けている。 C 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面状況などに応じて適切に活用できる技能の習得が不十分である。								
		2. 思考・判断・表現	A 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることができる。 B 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりすることが概ねできる。 C 目的や状況に応じて、様々な話題について、適切に表現したり伝え合ったりする力が不十分である。								
		3. 主体的に学習に取り組む態度	A 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図っている。 B 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 C 主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲が不十分である。								